

平成30年度地震・津波防災訓練 (内閣府・北海道・稚内市)

実施報告書 (概要版)

北海道稚内市について

稚内市は日本の北端に位置し、宗谷海峡を隔てたわずか43kmの距離にロシア連邦・サハリン州(旧・樺太)を望む「国境のまち」です。

稚内市では、地域防災体制の強化と市民の防災意識の高揚を目指し、住民や防災訓練関係機関が参加する「総合防災訓練」を従来から2年に1回、実施しており、平成29年度は午前と午後で想定平成29年度は午前と午後で想定する災害を変えた、二部構成による総合防災訓練(一部:大雨による土砂災害を想定、二部:日本海サロベツ断層帯を震源とする地震による大津波警報の発表を想定)を実施しました。

平成27年10月には、風水害や地震・津波等の災害発生時に備え、自力又は家族の力だけで避難することが難しい「避難行動要支援者」の避難支援のため、「稚内市避難行動要支援者避難支援計画」を策定し、市の防災、福祉、保健の各部門や民生委員、自主防災組織、町内会と連携しつつ、対策を推進しています。

また、防災情報を伝達する手段として、地域のコミュニティ放送局である「(株)エフエムわっかない」と連携した「緊急告知防災ラジオ」を整備し、広域にわたる市の行政区域にいち早く防災情報を伝達する仕組みを確立して、平成24年から全世帯を対象に防災ラジオを貸与しています。



訓練概要

- 訓練想定：10月28日（日）午前9時、サロベツ断層帯を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生し、稚内市（気象庁観測所）では震度6弱を観測、稚内市声問地区の沿岸部では、20分後に約4.4m（最大津波高）の到達が予想される。
稚内市は、地震発生後ただちに住民に対し、緊急告知防災ラジオ等により津波からの避難を呼びかけた。
- 実施日時：平成30年10月28日（日）09：00～12：30
- 実施地区：声問地区
- 主 催：内閣府、北海道、稚内市
- 参加者数：約300名
- 参加機関：各地区町内会、声問自主防災会、陸上自衛隊第3普通科連隊、航空自衛隊第18警戒隊、北海道開発局稚内開発建設部、稚内地方气象台、稚内警察署、稚内地区消防事務組合消防署、稚内消防団、稚内市赤十字奉仕団、北海道コカ・コーラボトリング(株)稚内事業所、(株)エフエムわからない、(株)ホテルめぐま 等

訓練の評価

訓練当日は、曇り時々雨の予報であったが、訓練時間中は晴れ間がのぞく、よい天気になり、声問地区の住民約230名を主体に、防災関係機関や企業等を合わせ、約300名が終始熱心かつ真剣に訓練に取り組んだ。

特に声問地区自主防災会発足以来、初めて行う避難訓練であったが、役員の参加呼び掛けに応じて多数の住民が参加し、かつ家族連れからお年寄りまで、幅広い年齢層が参加した有意義な訓練となった。

訓練終了後、訓練会場において実施したアンケート調査結果や防災関係職員の所見及び評価記録員の気付き事項を整理した結果、住民の防災意識が高いという評価の一方で、次のような意見や指摘があった。

- 地域の特性上、避難行動に制約がある高齢者が多いため、避難行動の支援要領や避難時の手段（車両の使用）等を要支援者ごとに検討し、迅速に津波浸水地域外へ避難させる必要がある。
- 地域によっては、指定された避難場所まで距離があり、津波第一波到達時間までに避難できない可能性のある地域があるため、垂直避難が可能な、あらたな避難場所（避難ビル等）の指定を検討する必要がある。
- 警報等の伝達手段は、「緊急告知防災ラジオ」によるところが大であり、屋外で行動している人々には伝わりにくいことから、サイレンにより警報音を発する等、補助的な伝達手段の検討が必要と思われる。

当日の訓練内容

09:00～ シェイクアウト訓練

市全域を対象に、自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置いた、安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施し、市民が、それぞれの場所で訓練に参加した。

▼ホテルめぐま



▼声問小学校



▼声問地区



09:05～09:30 津波避難訓練

シェイクアウト訓練後、声問地区の住民は計画で定めた津波避難場所（声問小学校またはホテルめぐま）を目指して避難行動を開始し、避難場所では名簿により安否確認を行った。

▼津波避難ビルへ



▼声問小学校へ



▼声問小学校



09:30～ 防災講話及び災害対策車両等の展示

稚内地方気象台の講師による、地震・津波災害及び豪雨災害に関する防災講話を聴講するとともに北海道開発局による災害対策車両等の展示を行った。

▼気象台による防災講話



▼災害対策車両の展示



09:00～12:30 避難所開設・運営訓練及び物資配給訓練

津波浸水地域外の住民が、声問小学校に避難所を開設し、避難者の受入れ訓練を行った。その後、避難所用品の実習、住民、関係機関による物資配給訓練を実施した。

▼避難所開設・運営訓練



▼自衛隊による炊き出し



▼物資配給訓練

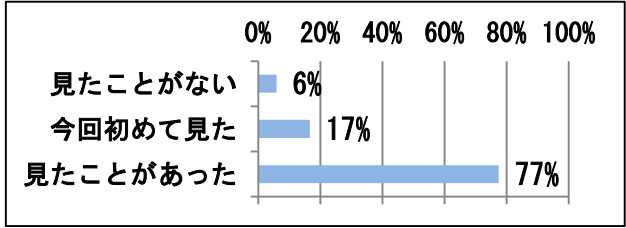


アンケート結果

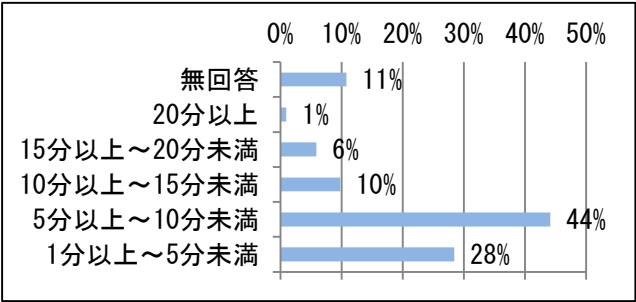
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：102人）

稚内市が作成した「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。

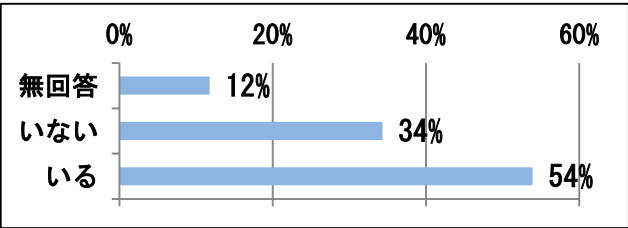
（回答数：102）



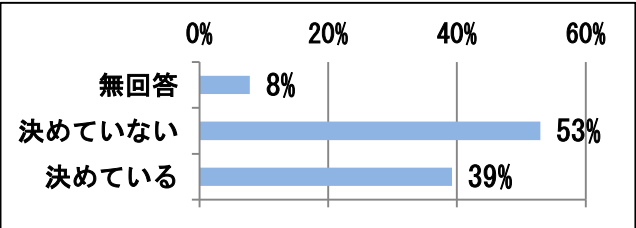
地震発生から避難先へは何分ぐらいかかりましたか。（回答数：102）



あなたの周辺には避難行動要支援者がいますか。（回答数：102）



災害時に一緒にいない家族との連絡手段を決めていますか。（回答数：102）



自由回答欄

- ・ 二人とも年齢が高い（83歳、77歳）ので、災害がないことを祈るばかりだ。
- ・ 今回は、避難所開設訓練もしたが、自分でやってみるにより、大変勉強になった。
- ・ この度の訓練はとてもいい経験になった。参加して良かった。家庭でも防災用品を用意して、いざと言う時に準備しておきたい。
- ・ 危険な状態になった時にどうやって連絡が来るのかわからない。（防災ラジオはあるが、それしかないのだろうか。）
- ・ 一度でも訓練を経験しておく、いざと言う時違うと思う。
- ・ とても良い経験になった。今後に活かしたい。
- ・ カレーライス美味しかったです。ごちそうさまでした。訓練したことが役に立ちそうです。
- ・ 皆様のご協力で訓練に参加でき、ありがとうございました。



平成30年度地震・津波防災訓練 (内閣府・高浜町)

実施報告書 (概要版)

福井県高浜町について

高浜町は、福井県の最西端に位置し、京都府舞鶴市と境し、日本海若狭湾国定公園に面した海と山に囲まれた町です。アジア初の国際環境認証ブルーフラッグを取得した「若狭和田ビーチ」など、海水浴場としても賑わっています。

高浜町では「暮らしたい、働きたい、訪れたいまち…高浜町」を5つの基本目標とし、人口減少を踏まえた防災の取組を進めております。

高浜町では、地域的な要因から台風による風水害や土砂災害等への対策、また、原子力発電所の立地から、住民の一時集合施設となる公共施設や病院、老人施設等の要配慮施設、災害対策拠点となる役場や消防庁舎について、放射性物質が侵入しないよう放射線防護施設に改修するなど対策を講じております。

そのため、毎年、地震津波訓練はもとより、原子力事故を想定した原子力防災訓練を始め、水防訓練や各自治区の避難訓練、区内の危険箇所を点検把握する町歩き研修など、自治区域にあった防災対策、訓練等を実施しております。



訓練概要

- 訓練想定：11月5日（月）9：45、若狭湾沖にある「若狭海丘列付近断層」を震源とするM7.6の地震が発生。高浜町内では最大震度5弱を観測。地震発生直後より大津波警報が発表され、町の沿岸地域では約40分後に、最大津波高5.9mの大津波が襲来する見込みである。高浜町は地震発生後直ちに災害対策本部を設置し、沿岸部の住民等に対して、防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。
- 実施日時：平成30年11月5日（月）09：45～12：30
- 主催：高浜町、内閣府（共催：福井県）
- 参加者数：約1,200名
- 参加機関：区長会、自主防災会、老人クラブ連合会、保育所、小・中学校、警察、消防、消防団、気象台、赤十字奉仕団、西日本旅客鉄道(株)、若狭高浜病院、NTT西日本(株)、(株)NTTドコモ、KDDI(株)、福井県生協

訓練の評価

訓練当日は、天候に恵まれ、小学生、中学生、保育所の幼児などを含め、地域住民、関係機関及び協定締結企業等を合わせ約1,200名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、住民、小・中学生及び町職員に対してアンケートを実施し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」を整理した。

この結果、「避難時のルートや行動等を経験できて良かった」、「行動できるようにするには訓練することが大切。避難所まで歩くことは重要」、「これからも定期的に地震・津波訓練を実施すべき」等の意見も出された。

◎津波に対する避難先や避難経路を知らない人が約65%（165人以上）いたが、自らの命を自ら守るために、避難先・避難経路を知ることは非常に重要であり、その自覚を促すためにも、引き続き自治会と学校等が連携した避難訓練を実施していく必要がある。

◎家族との連絡手段を決めていない人が全体の半数以上いたが、事前に複数の連絡方法を家族できちんと話し合っておくとともに、避難先等もルールとして決定し、認識を統一しておくことが必要である。

◎学校では、シェイクアウトの際に机の脚を両手で斜めに固定するよう指導されていることから、町としても「机の下に入っているだけでは、揺れによって机が倒れてしまう恐れもあり、机の脚を両手で斜めに固定する要領を引き続き徹底していく」ということを、訓練等を通じて地域に普及していく必要がある。

◎「もう少し危機感、リアリティを感じられるような訓練に改善した方がよい」との意見もあったことから、毎年実施している訓練と各自主防災会が実施している訓練をコラボして、大勢が方々が参加でき、また危機感等を醸成できるような訓練を考えていく必要がある。

当日の訓練内容

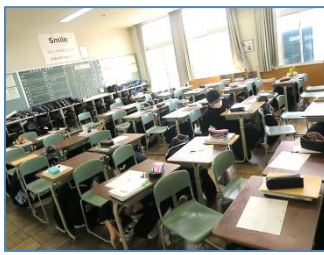
09:45～ シェイクアウト訓練

町全域を対象に自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、地域住民、小・中学生、町職員等が、それぞれの場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。

▼高浜小学校



▼高浜中学校



▼高浜保育所



09:48～10:25 津波避難訓練

高浜地区の小・中学生、保育園児及び地域住民は、各々の場所から、垂直避難又は高台及び津波避難ビルへの避難を実施した。また、ＪＲ小浜線の普通列車が緊急停止し、警察・消防が子供らを救助し、高台に避難誘導した。

▼地域住民



▼高浜小学校



▼ＪＲ小浜線避難訓練



10:00～11:00 防災関係機関・協定締結企業等による展示訓練

警察・消防の車両や起震車の展示・体験、並びに高浜町、防災関係機関・協定締結企業等による防災用品及び防災パネル等の展示を実施した。

▼起震車体験



▼関係機関車両展示



▼防災パネル等展示



11:00～11:40 防災講習会、11:50～12:30 物資配給訓練

中央体育館において福井地方気象台による防災講習会を実施した。講習会終了後、救援物資に見立てた啓発用防災用品の配給、炊き出した非常食の試食等、物資配給訓練を実施した。

▼福井地方気象台による防災講習会



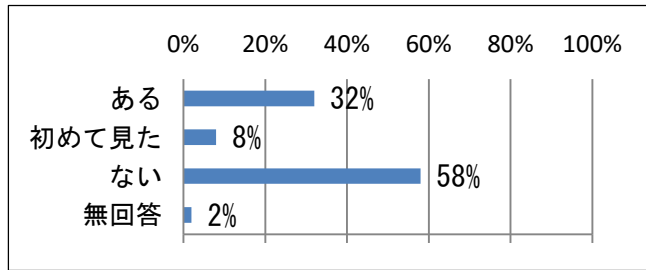
▼物資配給訓練



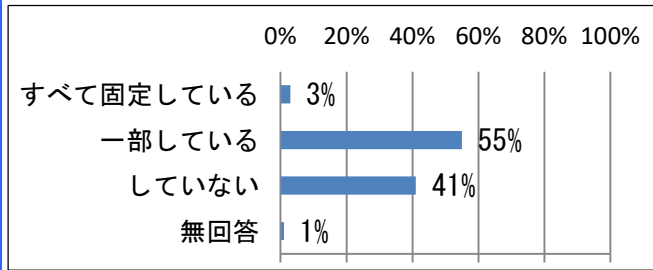
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

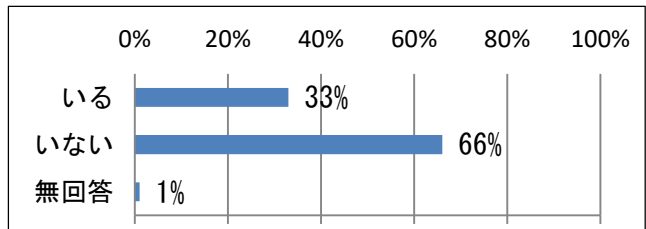
高浜町が作成したハザードマップを見たことがありますか。（回答数＝288名）



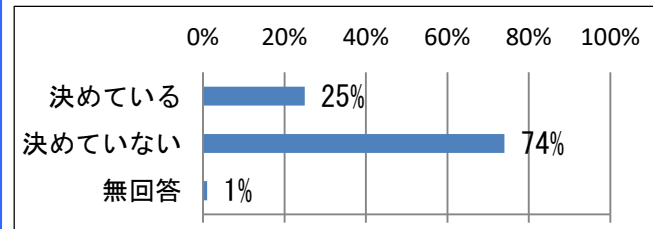
ご自宅の家具は固定してありますか。（回答数＝288名）



あなたの周辺には、避難行動要支援者がいますか。（回答数＝288名）



災害時に一緒にいない家族との連絡手段を決めていますか。（回答数＝288名）



【自由意見】

- 情報を得るために、しっかり繋がるWi-Fiが必要。また、避難方法、経路等の案内、情報がほしい。
- 訓練は家族で参加しやすい休日が良いかもしれない。今回は主人がお休みだったので、一緒に考えられて良かった。
- 知りたいのは「一般的な知識」ではなく、「どんな行動をとれば良いか」1人、家族で家にいる時「自分で判断する力」がつく内容にしてほしい。

【反映事項】

- 今後の訓練では、訓練を自らの判断等を確認する機会と捉え、訓練で何が出来て・出来なかったかを認識できることも重要。そのため、「どのタイミングで家の外に避難すべきか」「車か徒歩か」「2階か1階か」「避難経路が通れなかった場合の別ルート」「避難場所ではどんな支援があり、どのような生活を送ることになるか」「津波の心配がなければ遠くの高台より近くの図書館でも良いか」「どちらが安全で物資が届きやすいのか」等をケーススタディで確認する内容（講座等）を取り入れることも必要。
- 今回の訓練PVなどを、今後の訓練説明や町の訓練の啓発として活用し、啓発するとともに、より参加者を増やすうえでも休日に訓練を実施する。
- 毎回これほどの規模は難しいが、毎年、地域、自治区を限定しながら、その地域、場所にあった地震・津波避難訓練を実施する。

平成30年度地震・津波防災訓練 (内閣府・静岡県・伊豆市)

実施報告書 (概要版)

静岡県伊豆市について

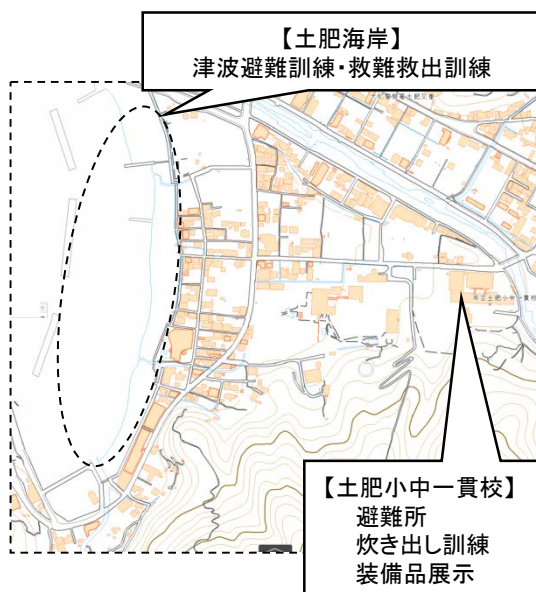
伊豆市は、伊豆半島の中央部に位置し、古くより温泉街が発展し、全国から観光客を呼び、修善寺温泉、天城湯ヶ島温泉、土肥温泉などがあります。

また、美しい砂浜を有する土肥地区は、夏季には海水浴客で賑わいます。

伊豆市では、安心して暮らせる持続可能で活力のある地域づくりのために「観光防災まちづくり」をかねて、平成29年5月観光防災まちづくり推進計画を策定し地区防災計画を作成する取り組みを進めています。

市内10箇所以上の地域で理解促進を図るための意見交換会等を開催するとともに、温泉旅館協同組合の情報伝達・確認訓練、のぼり設置、土肥こども園避難訓練、総合防災訓練、土肥金山連携訓練等津波避難訓練を実施してきました。

今回は、地区防災計画作成の参考となるよう、海水浴客やライフセイバーとホテル、市の土肥支所が連携した避難訓練を実施しました。



訓練概要

- 訓練想定：10月28日（日）午前10時20分、南海トラフ巨大地震が発生し、伊豆市では震度6強を記録し、地震発生直後より大津波警報が発表され、伊豆市の土肥地域には6分後に約10mの津波が押し寄せる見込みである。
- 実施日時：平成30年10月28日（日）10：20～12：30
- 主催：内閣府、静岡県、伊豆市
- 参加者数：約300名
- 参加機関：温泉旅館協同組合、観光協会、自治会、自主防災組織、土肥小中一貫校、海上保安庁、自衛隊、国交省、警察、消防

訓練の評価

訓練当日は、天候にも恵まれ、地域住民等による観光客エキストラ、温泉旅館協同組合（7個施設のホテル等）、市職員及び防災関係機関等、約300名が終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、内閣府訓練担当者の挨拶、伊豆市長の講評、参加者アンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の企画などの参考となるよう「課題」を整理した。

この結果、例年の防災訓練とは異なる訓練目的であり、「観光防災まちづくり」の機運が高まり、このような訓練の必要性を確信した。これを足掛かりに、土肥地区の地区防災計画を充実させて完成し、観光防災まちづくりの基礎を構築していく。

- 観光客避難訓練は、地域住民の協力及び避難施設であるホテル等の協力のもと実施した。実際の観光客で実施すべきとの意見もあり毎年恒例となるよう特別な意味合いを持たせた訓練を実施し観光の目玉とするのも一案である。
- 関係機関による救難・救出訓練については、見学のみであったが、高い関心が感じ取れた。
- 避難所運営訓練については、浸水地域外の住民による運営組織を確立し実施した。今後、このような体制での訓練を持続してもらいたい。
- 訓練日が休日であり小学生・中学生・高校生の参加が少なかった。

当日の訓練内容

10:20～10:23 シェイクアウト訓練

土肥地区全域を対象に自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置いたシェイクアウト訓練を行った。観光客避難訓練時、地震発生と共にシェイクアウト訓練を実施した。

▼子供達



▼年配者



▼家族



10:23～10:30 観光客避難訓練

夏、海水浴に訪れた観光客が地震・津波の際、いかにして高い施設等に避難できるかを検証するため、観光客エキストラを避難所へ誘導した。誘導手段として国際信号機U旗及び発煙筒を使用した。

▼観光客エキストラとライフセーバー



▼避難開始



▼ホテルへの避難状況



10:30～12:00 救難・救出訓練及び避難所開設・運営訓練

海岸で海上保安庁・消防・自衛隊による救難・救出避難を実施。浸水地域外の住人が運営組織を確立し、避難所の開設・運営訓練を実施し、その後、避難者用品等の取り扱い要領について実習した。

▼救難・救出状況



▼避難所受付



▼各種イベント



11:00～12:30 炊き出し訓練、装備品展示

自衛隊による炊き出し訓練を住民との連携により実施した。また、災害派遣に来る自衛隊等の装備品を展示した。

▼炊き出し訓練



▼試食状況

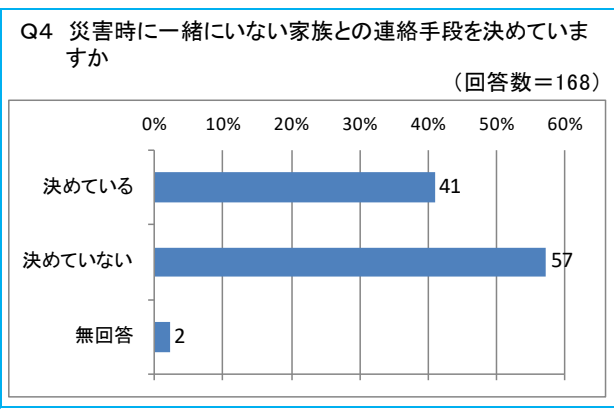
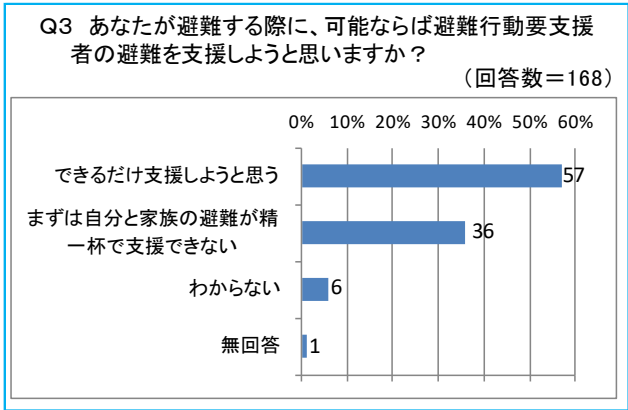
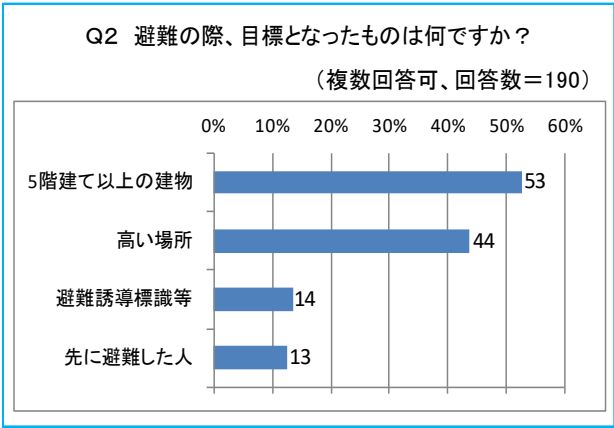
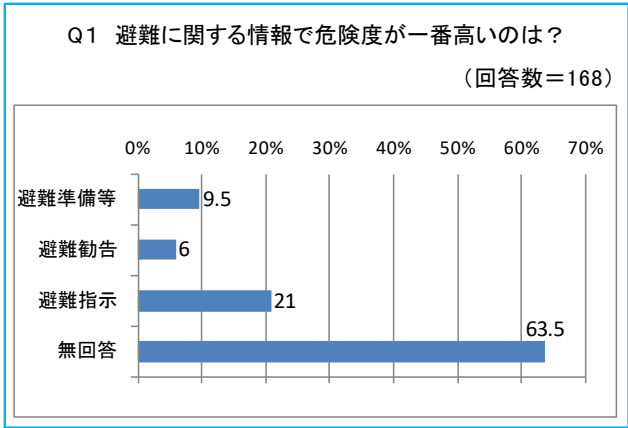


▼装備品展示



アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難訓練の状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。



※ Q 2 の補足説明：避難開始（海岸）時の避難目標であり、地震発生から3分後に大津波（10m）が押し寄せる想定である。

【自由意見】

- ・ 地震・津波訓練、市町村（地区）でもかなり頻繁に行ってほしい。もちろん自衛隊の方々もこのような訓練を沢山やって「地震の怖さ」を地域住民に知らせてほしい。
- ・ もっと大勢が参加して楽しさもあるように企画してほしい。
- ・ 地元の人でなく、観光客に参加してもらわないと本当の意味がないと思う。
- ・ 観光客にも避難経路を簡単に把握できるようにしたいと思った。
- ・ 外来者は、どこに逃げたらよいかわからないので看板などが見えやすいと助かります。安全に逃げられると、土肥にも、また来たいです。



平成 30 年度地震・津波防災訓練 (内閣府・湯浅町)

実施報告書 (概要版)

和歌山県湯浅町について

湯浅町（ゆあさちょう）は、和歌山県の北部に位置する、人口約 11,000 人、総面積約 20.8k m²の町である。湯浅湾入部は大規模な埋め立て地であり、臨海市街地が発達している。

湯浅町では東日本大震災を契機に、毎年、津波避難訓練を実施しており、湯浅町津波避難マップの作成や防災行政無線および防災ラジオの併用による情報伝達の迅速化を図るなど、様々な防災対策に取り組んでいる。

今回の訓練では、町でノウハウがなかった避難所開設を、専門家を交えて実施することで、避難後の生活までを見据えた防災意識を啓発することを目的とした。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月11日（日）午前9時に、震度6弱の地震が発生。香住区の沿岸地域では、約3mの津波が予想される。香美町は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。
- 実施日時：平成30年11月11日（日）9：00～16：30
- 実施地区：湯浅地区（国道より西側）、栖原地区、田地区
- 主催：湯浅町、内閣府
- 参加者数：約1,300名
- 参加機関：湯浅町民、湯浅広川消防組合、消防団（第1・2・4・5・8・9分団）、湯浅警察署、陸上自衛隊第三音楽隊、正木明氏

訓練の評価

訓練当日は天候にも恵まれ、地域住民や参加機関等合わせて約1,300名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や津波避難訓練の参考となるよう「得られた成果と対策案」を整理した。

【得られた成果】

- 一部の避難経路において、建物の倒壊などを想定し通行不可としたことで、避難経路を見直す機会を得られた。
- 避難所開設訓練では、住民らが積極的に取組む様子が伺え、町職員・住民ともに、避難所開設の手法などの知識を得ることができた。
- 特別講師による講演会を通じて、事前訓練と自助・共助の重要性を学び、住民らの防災意識の向上に繋がった。

【今後の対策案】

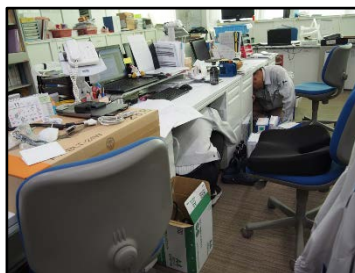
- 避難場所や避難経路については、経路上の安全性や、年齢・体力・健康状態にも配慮しながら設定し、津波避難訓練で検証する必要がある。
- 住民のほか、観光客および観光関連の事業者を交えた津波避難対策を考えていく必要がある。

当日の訓練内容

9:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

全町民を対象に、「自助」の実践として、シェイクアウト訓練を実施した。津波浸水想定区域内の住民は、町指定の一時避難場所への避難訓練を行った。同時に、消防組合および消防団が消防車両による避難広報活動を実施した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



10:10～ 避難所開設訓練

シェイクアウト訓練、津波避難訓練の実施後、全町民を対象に、湯浅スポーツセンターを会場として、災害時の「自助」と「共助」の重要性を学習する場として、避難所開設訓練を実施した。

訓練内容としては、避難所でのプライバシー確保の重要性を学ぶための段ボールベッド等組み立て訓練、啓発グッズを救援物資と見立てた救援物資仕分け訓練を実施した。被災時の体調不良を予防するための、保健師によるエコノミー症候群予防講話と体操を行った後、救援物資仕分け訓練で仕分けた啓発グッズを参加者に配布した。

▼避難所の開設（受付）



▼段ボールベッド等組み立て訓練



▼保健師によるエコノミー症候群予防講話



▼救援物資仕分け訓練



13:30～ 防災講演会、音楽演奏会

気象予報士の正木明氏による「命を守るために知ってほしい～災害に屈しないために～」と題した防災講演会を開催した。

陸上自衛隊第三音楽隊による演奏会を開催した。

▼防災講演会



▼音楽演奏会

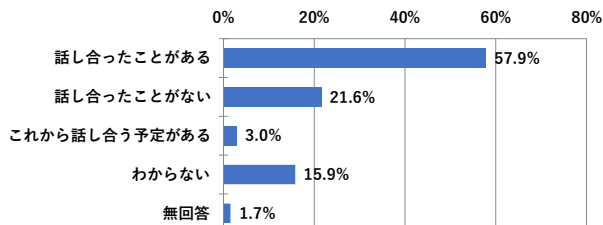


アンケート結果

参加した町民に、防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：541 人）

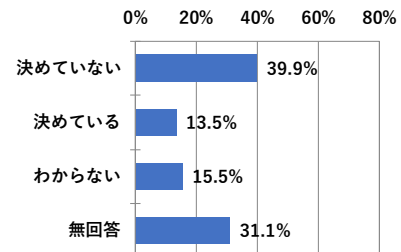
あなたの地域（区）で「災害時の避難について」話し合ったことはありますか。

（回答数=541）



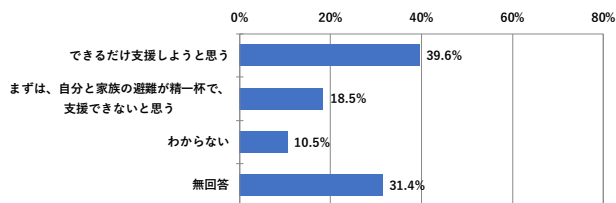
災害が発生した、または発生しそうなとき、ご近所での助け合いの方法を決めていますか。

（回答数=541）



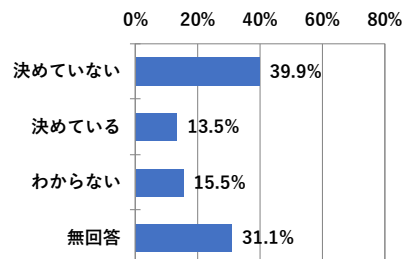
あなたが避難する際に、可能ならば「避難行動要支援者」の避難を支援しようと思いますか。

（回答数=541）



災害時に、家族同士どのように連絡を取るか、家族の中で決めていますか。

（回答数=541）



自由回答欄

- 防災に関する情報をもっと住民に機会をとって流してほしい。
- 仕事にしてもスポーツにしても訓練にしても、イメージトレーニングが一番大事。
- 参加者の意識づけの日頃の対応策が必要。
- 夕方、極寒、雨等条件を変えて行い、問題点を洗い出す必要がある。
- いざ地震になったらどのような行動をとるのかわからないと思うので、シミュレーションをしようと思いますが、どの程度の地震でどうなるか想像が付きません。
- それぞれの命ですから、まず自分が避難したら良いと思います。
- 災害がいつ起こるか分からないし、自分がその時自宅にいるとは限らないので、町が目印をもっと分かりやすく表していただけたいと思います。



平成30年度地震・津波防災訓練 (内閣府・山口県・柳井市)

実施報告書 (概要版)

山口県柳井市について

柳井市は、山口県の南東部に位置し、沿岸部、内陸部、半島・島しょ部からなり、気候は、冬も温暖で比較的雨の少ない過ごしやすい地域です。

平成30年には、避難行動要支援者避難行動支援計画（全体計画）及び避難行動要支援者個別計画を作成し、その周知を図るとともに、市全体の総合防災訓練・災害図上訓練・津波避難訓練・職員参集訓練、各学校・保育園・幼稚園の避難訓練、各自治会・自主防災組織の避難訓練等により自分の身は自分で守るという意識の醸成を図っています。特に、市として自主防災組織の立ち上げに努めており、自主防災組織を立ち上げた上で、昨年度までは市が計画して避難訓練を実施していたものを、今年度からは、自主防災組織自らが計画し、実行するような防災訓練となるように、自主防災組織に主体性を持ってもらうような試みを実施しているところである。



訓練概要

- 訓練想定：11月5日（月）09:00にM9.0の南海トラフ巨大地震が発生し、柳井市は平郡島で震度6強、本土側で震度6弱を記録、柳井市の沿岸地域では、約4mの津波が予想される。柳井市は、地震発生後ただちに住民に対し防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけるとともに、浸水想定区域内の市災害対策本部をサンビームやないに移設することを決定した。
- 実施日時：平成30年11月5日（月）09:00～11:00
- 主催：内閣府、山口県、柳井市
- 参加者数：約 5,100名
- 参加機関：自治会・自主防災組織、市内小・中学校・保育園・幼稚園、気象台、N T T、市社協、警察、消防、消防団、自衛隊、柳井商工会議所、大畠商工会

訓練の評価

訓練当日は、天候に恵まれ、小学生、中学生、保育園・幼稚園の園児を含め、地域住民や企業等を合わせ約5,100名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、住民や小学生のアンケート結果、「繰り返し訓練をすることが必要」、「自治会や家族でいつも話し合うことが必要」、「訓練は課題を多く抽出することが、災害に備えて大変重要」という評価の一方で、「家族との連絡手段を決めていない、避難先・避難経路を知らない人の割合の方が多い」という傾向が見られ、「避難した後の連絡等の訓練も考えてもらいたい」、「住んでいる地域の排水能力を知りたい」、「防災放送をする時は、まず、サイレンを大きく鳴らして、注意を向けてから話す」等の意見も出された。

柳井市職員からは、「今回の訓練を通して、公的な防災関係機関だけでなく、小中学校等とネットワークを構築できたことは、今後の防災対策を進める上で大変有意義なものであった。」「市の災害対策本部設置準備に当たり、本部にあるべき機能や体制についての教訓を得たことは、大災害を経験していない本市にとって貴重な経験となった。」との所見が出された。

また、小学校ではシェイクアウトの際に机の脚を両手で斜めに固定するよう指導されており、「机の下に入っているだけでは、揺れにより机が倒れる恐れがあり、机の脚を両手で斜めに固定させる。」というシェイクアウトの基本姿勢を全体に普及していく必要がある。

さらに、高齢化が進んだ地域では、中学生は支援者として大きな存在であり、引き続き自治会と中学校が連携した訓練を実施することが必要である。

当日の訓練内容

09:00～ シェイクアウト訓練

柳井市全体を対象に自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、地域住民、小中学校、保育園、幼稚園、市職員が各々の場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。

▼柳井小学校



▼柳井南中学校



▼柳井市役所



09:05～09:30 津波避難訓練

シェイクアウト訓練後、各種津波避難の呼びかけに応じ、児童・生徒及び住民は計画で定めた津波避難場所へ避難、防災関係機関は避難誘導・避難支援を実施した。

▼柳井小学校



▼柳井南中学校



▼住民



09:30～10:10 防災機関・協定締結企業等による装備品等展示

各防災機関が使用する車両・資機材の性能諸元・運用の概要を周知するため、警察・消防・自衛隊の車両展示及び防災機関・協定締結企業等による装備品展示を実施した。



09:00～10:20 市災害対策本部移設訓練、10:20～10:45 気象台防災講習会

浸水想定内の市役所から代替施設（サンビームやない）へ災害対策本部移設訓練を実施また、防災意識の高揚を目的とした気象台による地震津波及び風水害に関する防災講習会を実施した。

▼市災害対策本部移設訓練



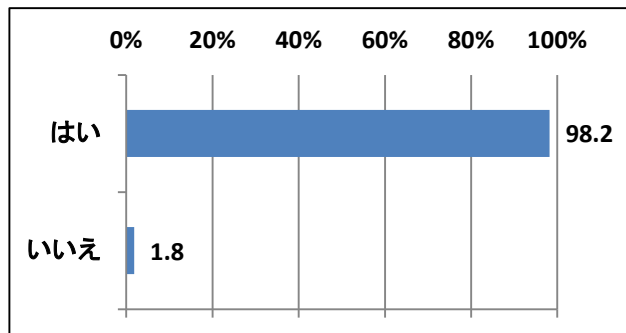
▼気象台防災講習会



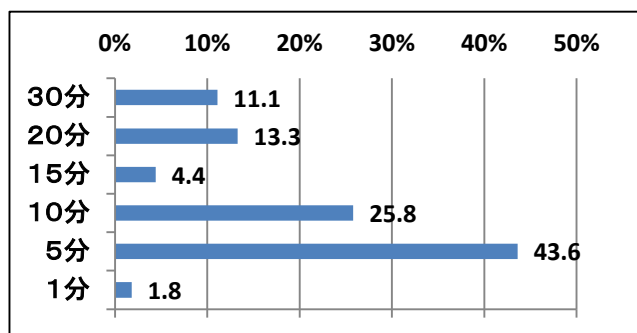
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（全回答数：56人）

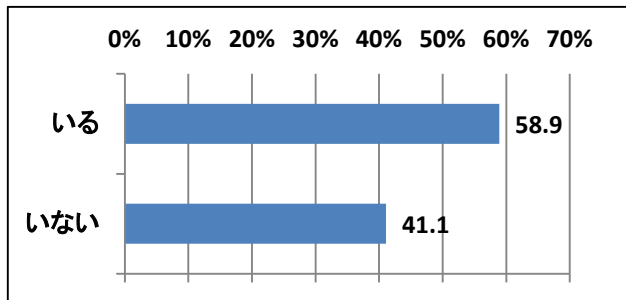
柳井市が作成したハザードマップを見ることがありますか。（回答数＝56）



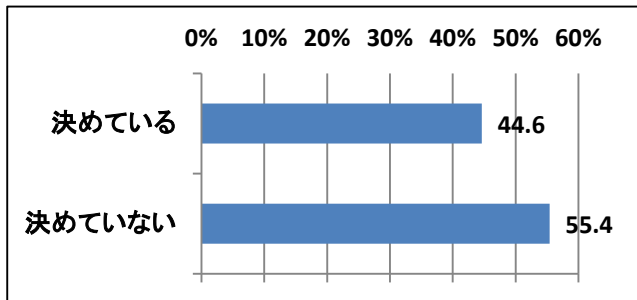
地震発生から避難先へは何分くらいかかりましたか。（回答数＝56）



あなたの周辺には、避難行動要支援者がいますか。（回答数＝56人）



災害時に一緒にいない家族との連絡手段を決めていますか。（回答数＝56）



【自由意見】

- ・ 日頃から訓練をしていないと、実際に災害があった時に行動（活動）できないと思った。繰り返し訓練をすることが必要である。
- ・ 早く行動を起こすこと、早めの避難の大事さがわかった。
- ・ 自治会や家族でいつも話し合うことが必要だと思った。
- ・ 実際に発生した時、冷静に行動できるように心掛ける。
- ・ 多くの課題を掘り起こし、改善に努力して欲しい。
- ・ 避難経路の危険箇所を発見できて良かった。災害講話も参考になった。
- ・ 避難経路の危険箇所を確認することができた。
- ・ 内水氾濫危険地区の指定等を周知してほしい。

平成30年度地震・津波防災訓練 (内閣府・松前町)

実施報告書 (概要版)

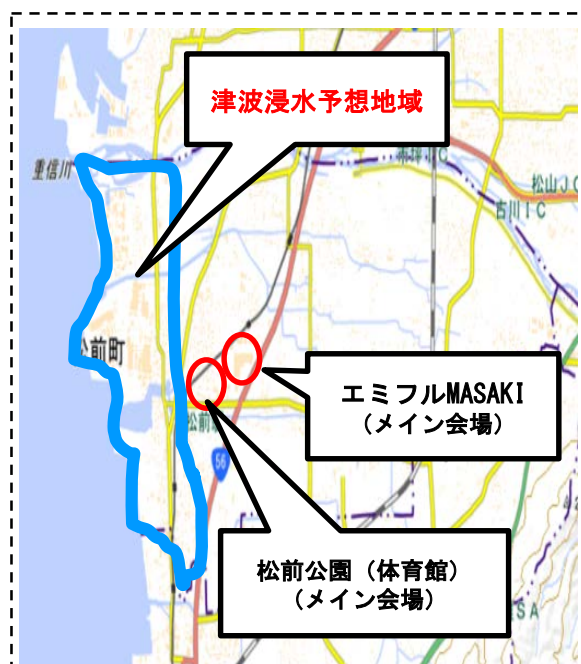
愛媛県松前町について

松前町は、石鎚山系に端を発した一級河川重信川を境にして県都松山市に隣接し、道後平野の西南部にあります。

西は伊予灘に面し、南は伊予市をへだて四国山脈が望め、豊かな自然と土地に恵まれたところです。

安政4年の地震においても、津波被害を受けず、過去、津波を含め大きな災害には見舞われていません。

松前町では、東日本大震災の教訓を踏まえ、南海トラフ巨大地震の津波に関し、愛媛県が平成25年6月に公表した被害想定調査結果をもとに、松前町総合防災マップ（津波編）を作成しました。このマップは、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす「最大クラスの津波」での町内の浸水深や津波が到達する時系列のシミュレーションを示し、『避難を基本』とした減災に活用できるものです。



出典：松前町ホームページ、松前町誌

訓練概要

- 訓練想定：11月7日（水）午前9時15分、南海トラフ巨大地震が発生し、関東から西日本各地で大きな揺れを確認した。地震の規模は、マグニチュード9.1で、愛媛県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された。松前町では、最大震度7を観測したため、直ちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し津波からの避難を呼び掛けた。津波浸水想定区域については、松前町総合防災マップ（津波編）のとおりとする。
- 実施日時：平成30年11月7日（月）09:15～12:00
- 主催：内閣府、松前町
- 参加者数：約470名
- 参加機関：自主防災組織、保育所、老人会、小・中学校、消防団、陸上自衛隊、河川国道事務所、愛媛県消防防災航空隊、消防、警察、(株)フジ（エミフルMASAKI）等

訓練の評価

本訓練は、民間の大型商業施設であるエミフルMASAKIと連携した初めての訓練であり、当日は、天候にも恵まれ地域住民、町職員及び防災関係機関等、約470名が終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練課目には、老人会を対象とした「避難後の健康管理講座」や東日本大震災経験者語り部による「防災講演会（早めの避難にまさる防災なし）」等を含めて実施し多大の成果を得た。この結果、「この種訓練は、反復実施が大切で地域の若者を含め参加者を広げたい。」等の有意義な意見が出された。

- 「松前町総合防災マップ（津波編）」に示す浸水想定地域に住む住民（松前校区自主防災会、松前幼稚園、松前小等）以外は、津波被害に関する認識が薄い。
- 訓練への避難行動要支援者の参加が見られず、また、参加された自主防災会や老人会の方に加えて、一般の若い人達（家族）の地震・津波避難訓練への重要性の認識及び訓練への参加が必要である。

当日の訓練内容

09:15～09:20 情報伝達訓練、シェイクアウト訓練

松前町全域を対象に、J-アラートの自動機能及び防災行政無線による情報伝達訓練と自らの命は自ら守るという「自助」の取組に重点を置いたシェイクアウト訓練を行った。
大型商業施設のエミフルMASAKIと連携した訓練を初めて実施した。

▼松前幼稚園



▼松前小学校



▼エミフルMASAKI



09:20～10:10 津波避難訓練、ヘリによる救助訓練

津波浸水想定区域の松前校区自主防災会の住民については、指定避難所の松前町体育館に、エミフルMASAKIの買物客（岡田・北伊予校区自主防災会、松前校区老人会、松前ひまわり・黒田保育所）は、従業員の避難・誘導に基づき、エミフルMASAKI西側立体駐車場に避難した。

▼松前小の屋上避難



▼松前町体育館への避難



▼エミフルMASAKI西側立体駐車場への避難



10:10～11:10 応急救護・煙体験・初期消火訓練等、避難後の健康管理講座

松前公園多目的広場では、各ブースに分かれて消防の指導により、応急救護訓練、煙体験訓練、初期消火訓練及び起震車体験訓練について体験型訓練を実施し、松前公園体育館では、松前校区老人会を対象として、町職員により避難後の健康管理講座を実施した。

▼応急救護訓練



▼初期消火訓練



▼避難後の健康管理講座



11:10～11:55 防災講演会、炊き出し訓練（09:15～終了）

東日本大震災語り部の、いとおか津波語り継ぐ会会長の仲條氏により、「早めの避難にまえる防災なし」という演題で防災講演会を実施した。また、自衛隊による炊出し（カレー）及び松前校区自主防災会による配食の炊出し訓練を実施した。

▼防災講演会講師仲城富夫氏



▼町長講評

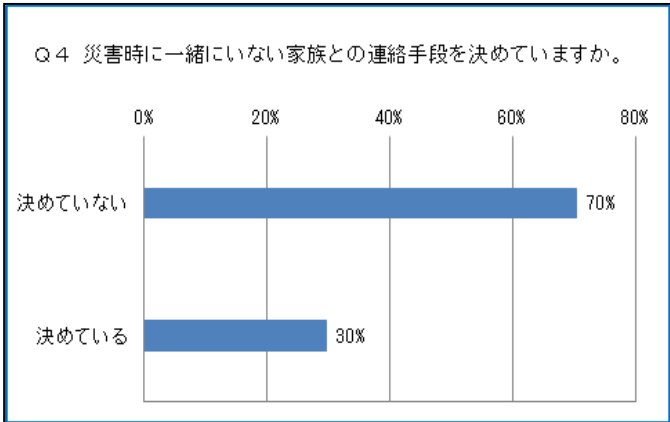
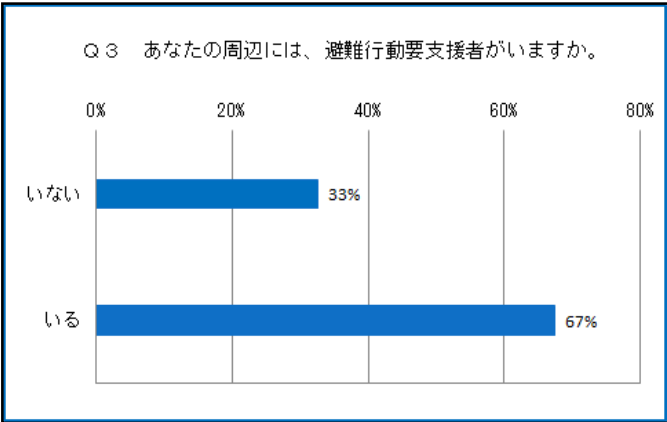
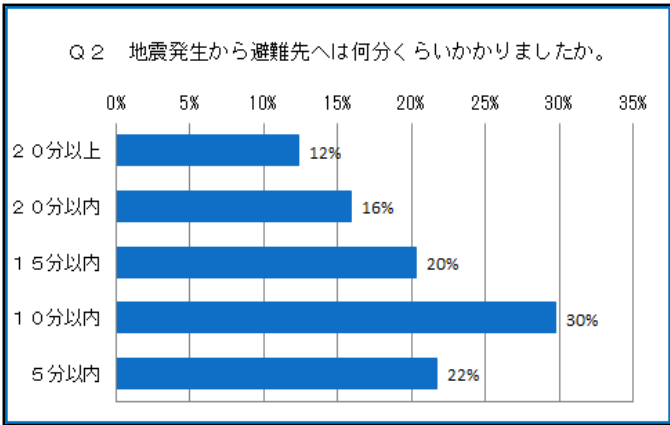
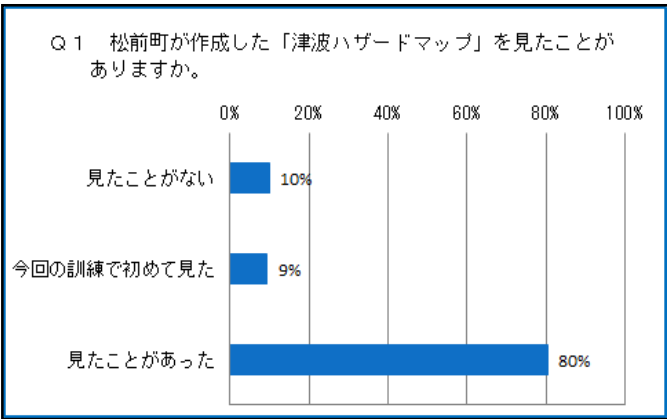


▼炊出し訓練



アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：138人）



【自由意見】

- ・避難時間が5～10分となるよう、避難所の数を現在の10箇所から30箇所程度に拡充が必要
- ・訓練に参加し防災教育の重要性を認識したが役場職員への防災教育も必要
- ・色々と経験でき良かったが、防災行政無線が聞こえにくかった。
- ・エミフルMASAKIと連携して実施した訓練は意義深い。館内放送は外国語も必要

【反映事項】

- ・引き続き、津波避難の重要性について周知・啓発し、避難行動要支援者を含めた訓練の実施が重要
- ・町の災対本部訓練の実施・継続により町職員の災害対策業務の練成が必要
- ・エミフルMASAKIと連携した訓練は、町としての災害対策活動充実に資する。



平成30年度地震・津波防災訓練 (内閣府・四万十市)

実施報告書 (概要版)

高知県四万十市について

四万十市は、高知県西南部に位置し、豊富な山林資源と日本を代表する清流四万十川、南東部は太平洋に面しており、自然環境に恵まれた、旧中村市と旧西土佐村が平成17年に合併して誕生した人口約34,000人のまちです。

四万十市は、沿岸部は津波、中心部は液状化、河川流域は洪水、中山間部は土砂災害等の災害特性を有しています。

特に、南海トラフ地震・津波に備え、津波避難路、津波避難タワー、防災活動拠点、防災コミュニティセンター、防災行政無線等を整備するとともに、住宅耐震化支援、避難所運営マニュアルの策定、自主防災組織への支援等を行っています。

また、津波避難訓練を市内津波浸水想定区域を対象に平成24年度に初めて実施して以来、毎年継続して行っています。



訓練概要

- 訓練想定： 11月3日午前9時に、南海トラフを震源とするM9.0の地震が発生し、四万十市では、最大震度7を観測、大津波警報も発令された。
四万十市は、地震発生後直ちに災害対策本部を設置するとともに、市民に対して、防災行政無線等により、津波からの避難を呼びかけた。
- 実施日時：平成30年11月3日（土）09：00～12：00
- 主催：内閣府、四万十市
- 参加者数：約2,000名
- 参加機関：自治会・自主防災組織、小学校、陸上自衛隊、海上保安庁、日赤、気象台、警察、消防等

訓練の評価

訓練は、内閣府の「地震・津波防災訓練」及び「四万十市みんなで防災訓練」を連携し、市内全域を対象に全世帯に参加を呼びかけて実施した結果、初めて実施した地区内安否確認訓練（黄色いハンカチ作戦）に約4,700世帯、防災訓練に約2,000名（うち津波避難訓練に約400名）と、自治会・自主防災組織、小学生及び防災関係機関等の多数の人達が参加して実施された。

これは、平成24年度以来、毎年津波避難訓練等を重ねてきた成果であり、市民の津波などの防災への関心も高く、終始熱心かつ真剣に取り組んでおり、有意義な訓練となった。

訓練終了後、各訓練会場で実施したアンケート調査結果や防災関係職員の所見、評価記録員の気づき事項等を整理した。この結果、「災害時に備えた良い準備ができ、勉強になった」「訓練は回数を重ねることが大切であり、次回も真剣に取り組みたい」「津波避難に連携して、いろいろな訓練をやっておく必要がある」などの意見の一方で、次のような課題も明らかになった。

- 家族との連絡手段を決めていない人が、約半数の46%いたが、複数の連絡方法をあらかじめ家族で話し合っておくとともに、避難先などもルール化して共有しておくことが必要である。
- 家具の固定をしていない人が28%、一部の人々が59%いたが、比較的簡単に実施でき、直ぐに効果も発揮するので、必要性を周知・徹底するとともに、要配慮者やお年寄りの家庭には、共助や公助の支援も必要である。
- 市として初めて実施した総合防災訓練であり、これまで連携の少なかった陸上自衛隊や海上保安庁等と一緒に訓練できた成果は大であったが、今後はライフラインやインフラ関係の事業者等、企業の参加拡大に取り組みたい。
- 津波避難訓練は、各地区における津波到達時間を考慮した避難方法・要領の検討も必要である。

当日の訓練内容

09:00～09:05 シェイクアウト訓練

四万十市全域を対象に、自らの命は自ら守るという「自助」の取組に重点を置き、住民、小学校、災害対策本部の職員等が、一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した。

▼竹島小学校



▼竹島小学校



▼市防災センター



09:05～09:30 津波避難訓練等

シェイクアウト訓練後、下田及び八束地区の竹島小学校の児童や住民は、各々示された津波避難場所への避難を実施した。

▼竹島小学校



▼住 民



▼地区内安否確認訓練
(黄色いハンカチ作戦)



10:00～12:00 防災活動拠点（八束）・一時避難場所（下田）運営訓練等

八束地区の防災活動拠点の運営訓練や下田地区の一時避難場所の運営訓練として、各種の訓練を実施した。

▼テント設営訓練



▼物資搬送・受入訓練



▼炊き出し訓練



09:00～12:00 その他の訓練

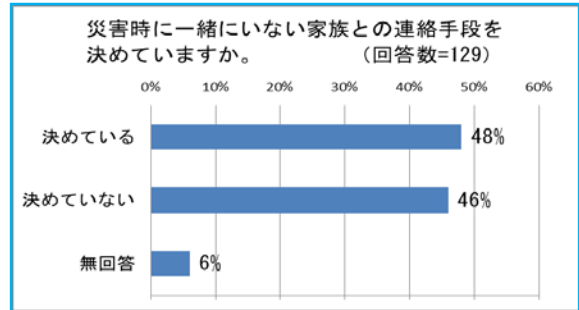
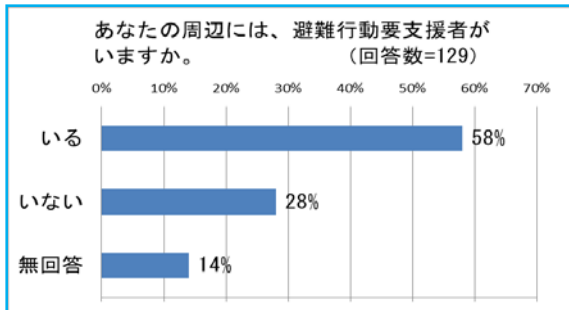
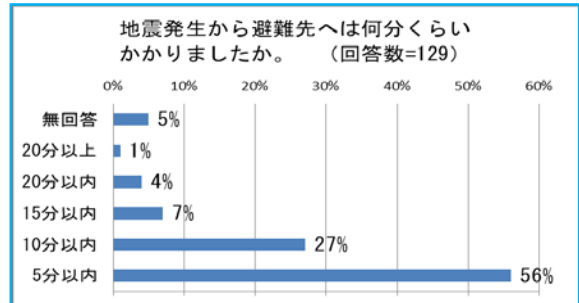
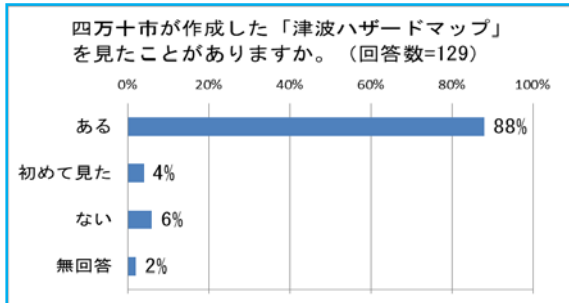
▼市災害対策本部運営訓練 ▼県緊急消防援助隊訓練 ▼防災学習（竹島小学校）

市防災センターで市災害対策本部運営訓練、不破地区河川敷で県緊急消防援助隊展開訓練、竹島小学校で防災学習等、各種の訓練を実施した。



アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（全回答数：129人）



【自由意見】

- ・ 自主防災組織や市民の一人として防災訓練等に取り組んでいくので、一人でも多くの方が助かるように、行政としてできることをお願いしたい。
- ・ 災害時は、避難所が不足すると思われるので、避難者用のテント設営訓練をしておくことは必要だと感じた。
- ・ テント設営訓練等を初めて体験し、良い勉強になったが、実際にやったことがないと、少し難しいと感じた。
- ・ 造水機を使って四万十川の水を浄水したが、実際に飲料水として飲むことができたので、安心した。
- ・ 現在のところ、直ぐに支援が必要なほどの状態ではないが、病気のため、歩くのが遅く、皆と一緒に行動ができないことが不安になる。
- ・ 災害時は、圧倒的にトイレが不足すると思うので、簡易トイレの設営訓練を実施しておくことは重要だと思う。
- ・ 炊き出し訓練で、皆でカレーライスを作ったが、もっと手軽に作れるお握り等の方が良いと思った。
- ・ 訓練で改善すべきことを着実に改善していくことが重要であり、そうでないとせっかくの訓練も役に立たないように感じた。

平成 30 年度地震・津波防災訓練 (内閣府・上天草市)

実施報告書 (概要版)

熊本県上天草市について

上天草市は、熊本県西部に位置し、急峻な山ひだが海岸線まで迫る地域や、緩やかな丘陵地が広がる地域、離島など、多様な地形で構成されている。

地勢的な特徴から、風水害に多く見舞われ、なかでも、昭和 47 年の天草大水害では、洪水、土砂崩れ、土石流などにより記録的な災害となった

近年は総合防災訓練を通じた関係機関の連携の強化や防災マップの作成などを進めてきたが、平成 28 年の熊本地震の際には、津波注意報に伴い市内では避難する自動車で道路が渋滞してしまう課題が生じ、地域特性に応じた避難の方法の確立と啓発が訓練の着眼点となった。



地図出典：国土地理院

訓 練 概 要

- 訓練想定：10月28日（日）午前9時頃、南海トラフを震源とするマグニチュード9の地震が発生し、上天草市では震度6弱の揺れを観測。気象庁は「2時間以内に高い津波」の津波警報を発表した。揺れから身を守った市民らは、沿岸部では高台への避難を、山間部では強い揺れによる土砂災害を警戒し、指定避難所へ集合した。防災関係機関は情報伝達や避難誘導等の初動対応を開始した。その後、自宅を失った市民は相互に協力し合い、避難生活を開始した。
- 実施日時：平成30年10月28日（日） 9：00～12：30（会場により異なる）
- 実施地区：龍ヶ岳町、大矢野町、松島町（松島中学校・教良木地区）
- 主 催：上天草市、内閣府
- 参加者数：1,100名
- 参加機関：実施地区内の自主防災組織・小学校・中学校、上天草さんぱーる株式会社、天草ケーブルテレビネットワーク株式会社、上天草市立上天草総合病院、社会福祉法人上天草市社会福祉協議会、上天草市地域婦人会連絡協議会、上天草市消防団、天草広域連合北消防署、国土交通省九州地方整備局、熊本県天草広域本部、熊本県警察本部上天草警察署、海上保安庁熊本海上保安部

訓 練 の 評 価

訓練当日は地域住民や関係機関等合わせて約1,100名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。訓練実施後、参加者アンケートの結果分析やふりかえり会議の実施により、今後の防災対策や訓練の参考となるよう「得られた成果と今後の対策案」を整理した。

【得られた成果】

- 住民らによる津波避難から避難生活の一連の訓練を通じて、災害時のイメージ向上や、地域での協力体制の重要さが認識された。
- 訓練に先立ち、地区ごとに住民が避難場所を確認または新たに設定し、助け合いの方法を話し合った。また、避難時に「黄色い旗」を玄関先に掲出することを試みた。当日は、「黄色い旗」の有効性が確認できたほか、地域ごとに避難場所を確認しておくこと等、地域特性に応じた気づきが得られた。

【今後の課題】

- 防災関係機関からは、特定の地区での避難誘導・搜索・救助等に職員を派遣することの限界が指摘された。今後は、地域で生き残る意味でも、自助・共助の普及・促進に取り組む必要がある。
- 住民らの避難行動を通じて、要配慮者への支援の必要性が認識された一方で、課題や限界、避難場所の収容力等が指摘され、今後は、市内各地の地域特性に応じて、災害時の行動を具体化しながら訓練を行う必要がある。

9:00～9:30 第 1 部 シェイクアウト訓練、津波避難訓練

全市民を対象に、地震発生を想定したシェイクアウト訓練をそれぞれの居場所で実施した。

その後、沿岸部の住民は、最寄りの避難場所への津波避難を行い（山間部では土砂災害を想定した避難）、消防団や警察等は避難誘導を行った。

このほか、上天草市役所庁舎内では、関係機関との情報伝達を、上天草総合病院では、患者等の上階への避難誘導やオレンジフラッグ掲出を実施したほか、天草ケーブルテレビネットワーク株式会社は上天草市との協定に基づき、現場映像の配信を行うなど、津波到達時の各主体での緊急行動を市内各地で一斉に実施した。

▼身体防御



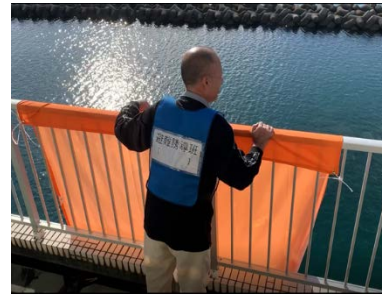
▼高台への避難



▼ビル上階への避難



▼オレンジフラッグの掲出



10:00 頃～12:30 頃 第 2 部 避難所開設訓練、応急救護訓練 等

第 1 部終了後、津波到達等により地区内が被災し、避難生活を開始した想定で実施した。

指定避難所において、避難所開設、避難生活場所の間仕切り体験、炊き出しや応急救護等の体験訓練を実施した。

なお、訓練会場により内容を一部変更し、海上保安庁による海上救助活動や消防と病院による応急救護所設置の実演・見学を盛り込んだ会場のほか、中学校では、生徒による炊き出しや、災害ボランティアの学習・体験、過去の災害の体験を聴くなどの防災学習の機会として実施した。

▼避難所開設（間仕切り組み立て）



▼応急救護



▼炊き出し



▼海難救助（海上保安庁）

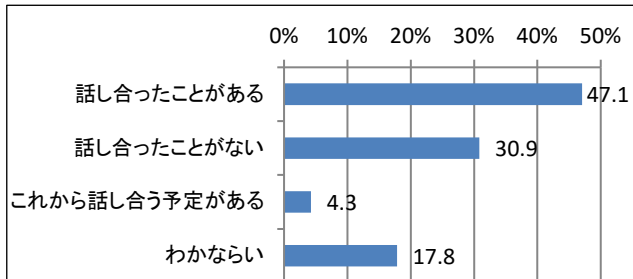


アンケート結果（一部抜粋）

参加した住民の方々に、防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：392 人）

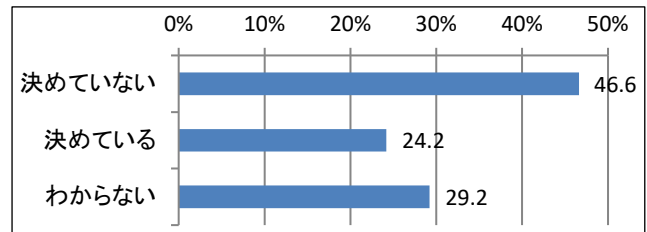
あなたの地域で「災害時の避難について」話し合ったことはありますか。

（回答数＝376）



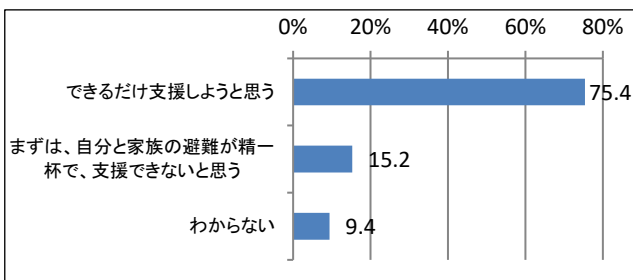
災害が発生した、または発生しそうなとき、ご近所での助け合いの方法を決めていますか。

（回答数＝339）



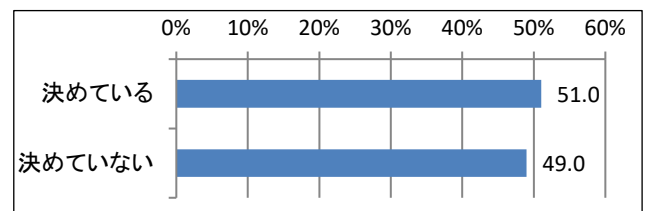
あなたが避難する際に、可能ならば「避難行動要支援者」の避難を支援しようと思いますか。

（回答数＝341）



災害時に、家族同士どのように連絡を取るか、家族の中で決めていますか。

（回答数＝341）



自由回答欄

- 災害は他所の事、位に思っていました、身近に感じられ良かった。
- 勉強になりました。いつ起こるか分からないので、日頃から頭の中に考えておかなければいけないと思った。
- 地震体験が良く分かり、大変ためになりました。
- みなさん協力し合って良かった。
- 休日はやっぱり近所の皆さんに会ったり出来ました。
- 自分の身体に不自由な事がある今避難する大変さがわかりました。
- 色々な体験ができて大変良かった。
- 自分でできること、手伝える事を中学生と一緒に体験できてよかった。
- 煙体験が怖かった。
- 初めて参加しましたが、役に立つように覚えておきたいです。



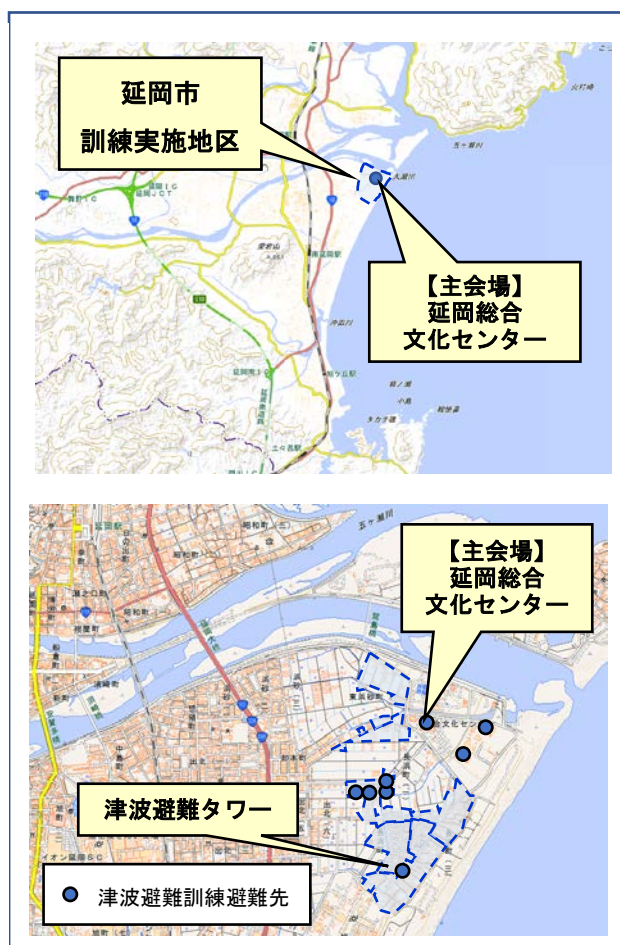
平成 30 年度地震・津波防災訓練 (内閣府・延岡市)

実施報告書 (概要版)

宮崎県延岡市について

延岡市（のべおかし）は、宮崎県北部に位置し、周囲を山地・山麓、海面に囲まれており、海岸部では、半島・島礁・入り江が特徴的なリアス海岸を形作っている。また、市内の多数の河川が合流している河口付近では、市街地が発達し、工場も多く立地している。

延岡市地域防災計画によると、県内で被害のあった大地震（M7.0 以上）はこの 100 年間に 10 回発生し、南海地震（S27 年，M8.0）では、日向灘沿岸域で 1.5m の津波高が記録されており、市では、津波避難ビルの指定のほか、特定津波避難困難地域への対策として、津波避難タワーの建設及び避難路の整備を進めてきた。今回の訓練は、市民に対する津波避難時の津波避難施設利用方法の周知と津波防災活動の啓発を目的として実施した。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月18日（日）午前8時30分頃、南海トラフを震源とするマグニチュード9の地震が発生、延岡市では最大震度7を観測。大津波警報が発表され、延岡市沿岸部では最大高さ14mの津波が8時55分に到達予想。
- 実施日時：平成30年11月18日（日）8：30～17：00
- 実施地区：長浜地区（浜砂町1区、長浜町1区、長浜町2区、長浜団地、西長浜北）
- 主催：内閣府、延岡市、延岡市防災フェスタ実行委員会
- 共催：宮崎県
- 参加者数：約1,000名
- 参加機関：自治会（全5地区）、延岡市自主防災組織連絡協議会、延岡市サッカー協会、九州保健福祉大学、（公財）のべおか文化事業団、（株）ヘルストピア延岡、（一社）延岡市医師会、（一財）潤和リハビリテーション振興財団、（社福）真隆会、宮崎県警察延岡警察署、延岡市消防団恒富分団、その他17機関

訓練の評価

延岡市での訓練は、住民や消防・津波避難ビル施設管理者等の実動訓練を中心とした「長浜地区津波避難訓練」、全市民向け展示・体験型イベントの「延岡市防災フェスタ」、東京大学片田敏孝特任教授による講演やパネルディスカッションを行う「防災講演会」を、延岡市長浜地区において実施し、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が訓練に臨んだ。訓練実施後、参加者アンケートの結果分析やふりかえり会議の実施により、今後、地域や施設の避難計画の検討や訓練の参考となるよう、「得られた成果と今後の対策案」を整理した。

【得られた成果】

- 自主防災組織が訓練に先駆けて積極的に活動し、長浜地区住民に対する避難先アンケートの実施や避難者リストの作成等、訓練の実施前から、長浜地区の津波避難への備えを充実させる取組が行えた。
- 津波避難ビル指定施設において、職員配置や誘導要領が的確であり、初動から避難完了まで一連の動きが円滑に実施できていた。
- 津波避難対象地区の避難行動要支援者利用施設で、施設職員や近隣の看護学校生徒らによる避難支援を実施し、避難支援の手順や所要時間、医療に関する知識を持つ人材が共助の一員となる意義を確認できた。

【今後の対策案】

- 避難後の避難者が実施する避難行動要支援者への避難支援要領を検討する。
- 地区での所属班だけでなく、通しの名前順にした名簿を備えるなど、避難確認用名簿に工夫する。
- ライフラインが寸断された場面での通信手段や避難場所としての対応を今後検討していく必要がある。

当日の訓練内容

8:30～9:15 長浜地区津波避難訓練（シェイクアウト訓練、津波避難訓練等）

長浜地区の居住者及び津波避難ビル指定施設やグラウンドの施設管理者・利用者が、地震発生を想定したシェイクアウト訓練をそれぞれの場所で実施した。

その後、消防団による長浜地区内での津波避難の呼びかけや、津波避難ビルの施設管理者による避難誘導訓練を実施した。

延岡市医師会病院等の長浜地区内の3つの医療・福祉施設では、避難行動要支援者に対する上階避難支援を想定し、近隣看護学生らによる避難支援訓練を行った。

清掃工場では、海に出ている人に津波の危険、避難先を知らせる合図として、オレンジフラッグ掲出訓練を行った。

▼シェイクアウト訓練



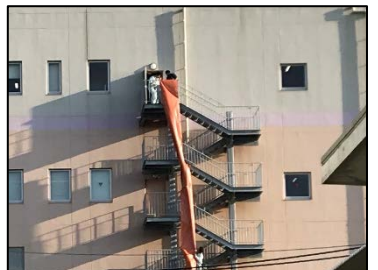
▼津波避難訓練



▼要支援者避難支援訓練



▼オレンジフラッグ掲出訓練



10:00～15:00 防災フェスタ（防災備蓄品・車両・パネル展示、炊き出し等）

例年、延岡市消防本部で開催していた防災フェスタを訓練に合わせて長浜地区の延岡総合文化センター駐車場にて実施した。

市内外から23の防災関連機関が参加し、ブースを出展、パネル展示・車両展示・防災関連物品の展示・販売、地震・豪雨体験、炊き出し等を行った。

▼オープニングセレモニー



▼内閣府ブース



14:00～17:00 防災講演会（講演、パネルディスカッション）

「激甚化する自然災害にどう向かい合うか」をテーマに、防災教育の第一人者である東京大学特任教授の片田敏孝氏による講演を行い、その後、「犠牲者ゼロの延岡市をつくる」をテーマに、延岡市長、自主防災会長の他、平成30年西日本豪雨被災地で活動した陸上自衛隊中隊長を交えパネルディスカッションを実施した。

▼片田敏孝氏による講演



▼パネルディスカッション

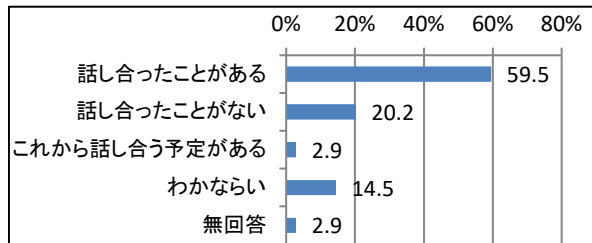


アンケート結果（一部抜粋）

参加した住民の方々に、防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：415 人）

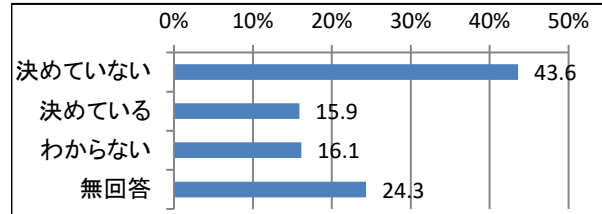
あなたの地域（区）で「災害時の避難について」話し合ったことはありますか。

（回答数=415）



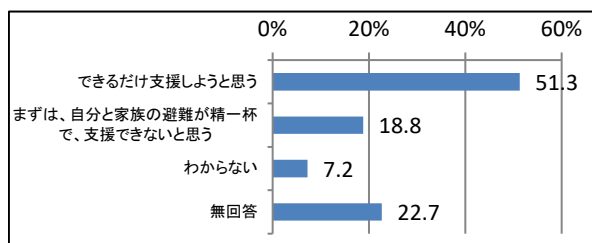
災害が発生した、または発生しそうなとき、ご近所での助け合いの方法を決めていますか。

（回答数=415）



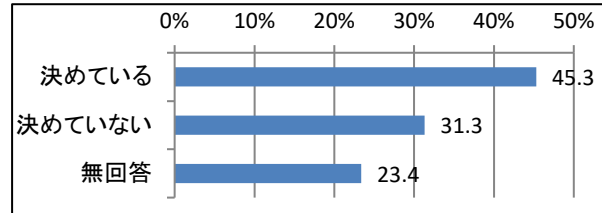
あなたが避難する際に、可能ならば「避難行動要支援者」の避難を支援しようと思いますか。

（回答数=415）



災害時に、家族同士どのように連絡を取るか、家族の中で決めていますか。

（回答数=415）



自由回答欄

- 避難場所も分かってとても良かったです。
- 子どもたちが経験できてとてもためになりました。
- 避難誘導をする方から声かけして頂き元気づけられて良かったです。
- 本当の時は荷物もあるのでもう少し遅くなるかもしれませんが。今日は誘導の方がいて安心しました。
- 防災無線の音が小さく家の中でテレビ等をつけていたら聞えるのかなと心配になった。
- （津波避難ビルの）学校が出来てから眺めて通るばかりだったが、初めて中に入れて立派なところで有難うございました。
- 参加者が年齢の高い人が多く若い人の参加が少ないと感じました。地域の若者の参加もお願いしたいですね。
- 初めての参加でした。何度も参加すべきと感じた。



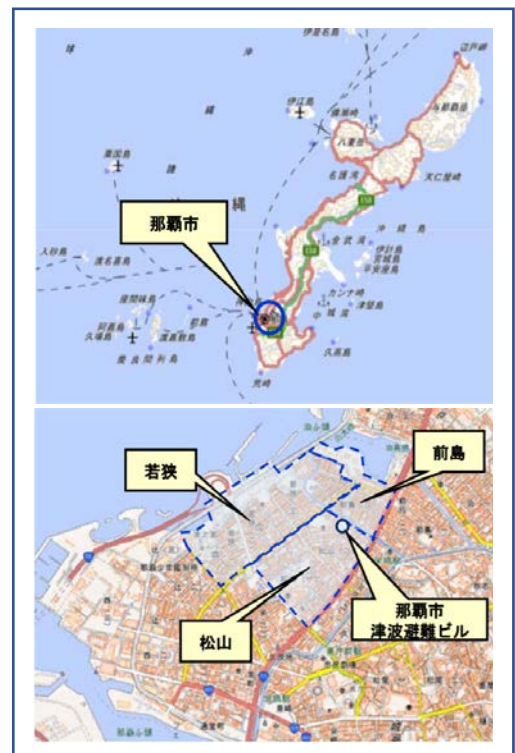
平成 30 年度地震・津波防災訓練 （内閣府・那覇市）

実施報告書 （概要版）

沖縄県那覇市について

沖縄県は、北緯 24～28 度、東経 122～133 度の南北約 400km、東西約 1,000km の海上に弧を描いて連なる 160 の島嶼の内、有人島 39 からなっている。その中でも那覇市（なはし）は最大の島、沖縄本島の南部に位置しており、西方に東シナ海を擁し南北及び東の三方は、他の市町村と隣接している。

那覇市地域防災計画によると、沖縄本島では、想定地震として市内で震度 6 強の「沖縄本島南部スラブ内地震」が想定されている。今回訓練を実施した那覇市の松山・若狭・前島 3 丁目地区には、平成 28 年に津波襲来時の避難施設として最大 2,000 人の避難可能な「那覇市津波避難ビル」が建設され、同施設を拠点として地域の絆で防災力を高める取り組みが行われている。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月3日（土）、午前9時00分頃、沖縄本島南東沖地震を震源とするマグニチュード8.8の強い地震が発生し、那覇市内は最大震度6強の揺れとなり、地震発生に伴い津波が29分に襲来することから、気象庁は午前9時02分に大津波警報を発表した。那覇港では最大5.7mの津波が午前9時33分に、港町では最大4.3mの津波が午前9時32分にそれぞれ到達した。
- 実施日時：平成30年11月3日（土） 9：00～12：00
- 実施地区：松山・若狭・前島3丁目地区
- 主 催：内閣府、那覇市
- 参加者数：約150名
- 参加機関：地域自治会、那覇市消防団、NPO法人日本防災士会防災士会沖縄県支部、人も犬も猫も幸せな！街作り隊OKINAWA、NTTフィールドテクノ、防災事業者、沖縄気象台、沖縄県

訓練の評価

那覇市の訓練では、市内全域を対象に実施した「津波避難訓練」、山口大学瀧本浩一准教授による防災講話を、そして避難所開設訓練や応急救護訓練等の「体験型訓練」を、那覇市松山・若狭・前島3丁目地区において実施した。

当日は、大雨というコンディションのなか、市民や参加機関等合わせて約150名が訓練に参加し取り組んだ。さらに訓練実施後は、訓練参加機関による振り返り会議を開催した。その会議での意見や参加者アンケート結果等から訓練実施成果や、今後の知見を整理した。

【得られた成果、課題】

- 大雨等の悪い天候の中で地震・津波が到来した場合、避難時間が想定よりも長くなるため、より複合的な環境を想定する重要性が本訓練で確認された。
- 複数の一時避難ビルを周知していたが、特定の箇所に避難先が集中する可能性が本訓練で示唆された。
- 地域住民に「那覇市津波避難ビル」以外の一時避難ビルを周知するとともに、訓練への参加者を増やすための周知活動を行う必要がある。
- 津波避難訓練を実施するにあたり今回は休日に実施したが、啓蒙効果を高めるためにも、学校や企業等が参加しやすい平日の実施を検討する必要がある。
- 実際に津波が発生した場合、大津波警報が発令されて解除されるまでに1日以上かかることがあることも想定し、実際に避難ビルから24時間以上出られないときの対策等も具体的に検討していく必要がある。

【今後の対策案】

- 今後は、地域住民に近隣の一時避難ビルを周知するとともに、防災意識を高め、訓練への参加者を増やすためにも継続的に周知活動を行っていく。
- より具体性・実効性を高めるためにも、地区防災計画の作成、地域の防災リーダー育成等の取り組みを検討していく。

当日の訓練内容

9:00～9:30 シェイクアウト訓練、津波避難訓練の実施

那覇市による防災行政無線による訓練開始の合図とともに、松山・若狭・前島3丁目地区の市民を対象に、「自助」の実践としてシェイクアウト訓練を実施した。

その後、同地区内で指定されている津波緊急一時避難ビル（7カ所）への避難誘導を行い、訓練を行った。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



9:30～10:00 一時避難ビルからメイン会場への移動、防災講演会

津波緊急一時避難ビルでの安否確認後に、メイン会場である那覇市津波避難ビルへ移動し、講師による防災講話を実施した。

- 専門家（山口大学 瀧本浩一准教授）
「地域防災の考え方とその活動について～来るべき地震・津波災害に備える～」

▼メイン会場での受付



▼防災講演会



11:00～12:00 応急救護訓練、炊き出し訓練、展示 等

防災講演会終了後、メイン会場内で、展示、体験型訓練、応急救護訓練、炊き出し訓練を実施した。

- 展示
人も犬も幸せな！街づくり隊 OKINAWA、NTT フィールドテクノ、沖縄气象台、沖縄県による展示を実施した。
- 体験型訓練
那覇市消防団による応急救護訓練、段ボールベッドの組み立て、NPO 法人日本防災士会沖縄県支部による「作ろう防災」を実施した。
- 炊き出し訓練
那覇市消防団により実施した。

▼避難所開設訓練

（段ボールベッドの組み立て訓練）



▼応急救護訓練（那覇市消防団）



▼展示



▼炊き出し訓練

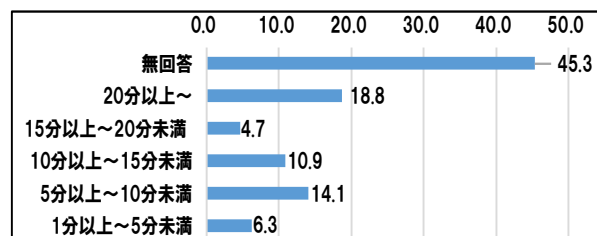


アンケート結果（一部抜粋）

参加した住民の方々に、防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：64 人）

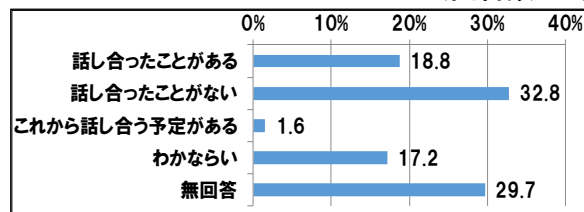
地震発生から津波避難所への避難は何分くらいかかりましたか。

（回答数=64）



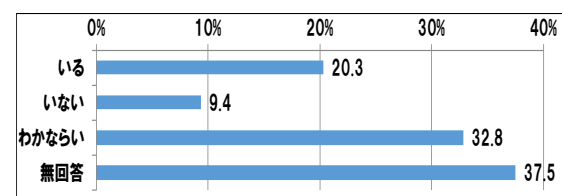
あなたの地域（自治会等）で「災害時の避難について」話し合ったことはありますか。

（回答数=64）



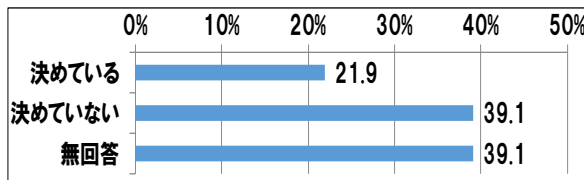
あなたの周辺には、「避難行動要支援者」がいますか。

（回答数=64）



災害時に、家族同士どのように連絡を取るか、家族の中で決めていますか。

（回答数=64）



自由回答欄

- 講師の話が分かりやすかった。家でも地震・津波に備えようと思ういいきっかけになった。
- 今は地域に自治会がなく、このような訓練等もないのが現状であるため、小学校区内にこのような取組主体があるといい。
- 自主防災組織で避難計画を作成し、要支援者がいる場所を把握し、有事に備える必要があると感じた。
- 会社でもこのような訓練や講演を聞かせたいと思った。津波防災に関する情報がまとまっており、講師の瀧本先生のお話しもとても分かりやすかった。事実として受け止めようと思いました。
- 大変良かった。家族、会社等に持ち帰り活用したいと思う。
- 課題として、エリアによってはサイレンが聞こえない場所があった。また、すぐテレビ・ラジオ等で情報確認するよう日頃から市民に周知させるようにしてほしい。

